

科学技術政策担当大臣と有識者議員との会合 議事概要

- 日 時 平成21年12月10日(木) 10:00~10:45
- 場 所 合同庁舎4号館742会議室
- 出席者 津村政務官、相澤議員、本庶議員、奥村議員、白石議員、今榮議員、青木議員、金澤議員、藤田政策統括官、梶田審議官、大江田審議官
- 議事概要

議題1. 「第4期科学技術基本計画への日本学術会議の提言」について

<金澤議員説明>

- (白石議員) ◇ 大型研究・大規模研究に多くのページを割いて議論されているが、基本計画との関係では、こういうものを基幹技術のようなところに組み込むべきという主旨か。
- (金澤議員) ◇ そうではなく、大型研究・大規模研究を行う場合には、ポジティブな面だけではなく、ネガティブな面も含めて議論した上で、多くの人の意見を入れて、皆が納得する形でスタートすべきということである。
- (奥村議員) ◇ 大型研究については、それ自体がどうあるべきかという議論をすべきであり、この項の最後にあるような、大型研究よりも小規模の基盤的機器にお金を回すというような議論は問題である。
- (金澤議員) ◇ バランスを考えながらやるべきという考えが基本にはあるが、大型研究を止めて小規模に回すというような単純な話ではない。
- (奥村議員) ◇ 基本計画の策定に向けて、日本学術会議として一番強調されている点はどこか。
- (金澤議員) ◇ 一番大きいのは、最初に書いている「国の長期的発展のための「学術政策」を確立」という点である。現在の科学技術政策では、基礎科学や人文社会は十分に議論できておらず、また、人材育成についても大学の中の問題までは扱えていないということに対する問題意識が基本にある。
- (本庶議員) ◇ フレキシブルに研究者が集まって文理融合や新領域開拓を行うためには、部局の独立や自治といったスタイルではなく、大学のマネジメントそのものを変えていく必要がある。日本学術会議においては、こういう点をフォローアップしていただきたい。
- (奥村議員) ◇ 大学内部からの改革が難しいということであれば、個別大学のアクティビティやパフォーマンスを公開し、それによって研究者や学生が大学を選ぶという形にすべき。
- (相澤議員) ◇ 「科学技術」がサイエンス・ベースト・テクノロジーにシフトしているので、本来のサイエンス・アンド・テクノロジーとして、サイエンスをもっと明確に位置づけるべき、というのが本旨ではないか。それであれば、基本計画に向けたインプリケーションとしては比較的受け入れやすい。
- (奥村議員) ◇ その議論は、何が根拠なのか不明であるし、サイエンスであってもテクノロジーであっても、世の中の課題を解決するのに貢献することが期待されているのであるから、それをどう表現するかということをや延々と議論するのは、国民から見てもわかりにくい。

- (金澤議員) ◇ 科学技術庁ができたとき、科学技術庁と文部省が統合したときのいきさつもあり、科学技術の推進と言った場合に、人文社会科学も対象として含むと思われるなどの問題がある。総合科学技術会議の改組という話があるので、そういう議論の中で、用語も統一していただきたい。

議題2. 最先端研究開発支援プログラムについて

<二村参事官説明>

- (相澤議員) ◇ パブリックコメントについては既にホームページに掲載されているので、締切日以降、出てきた意見等を勘案して最終的に内容を決定する。

(以 上)